

「活用する力」の向上を目指して

～全国学力・学習状況調査の結果を紹介～

◆調査の概要

文部科学省では、平成19年度から小学校6年生および中学校3年生の児童生徒を対象に、全国的に子どもたちの学力状況を把握する「全国学力・学習状況調査」を実施しています。

この調査は、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況等を把握・分析することにより、教育および教育政策の成果と課題を検証し、その改善を図ること、各教育委員会や学校等が全国的な状況との関連において自らの教育および教育政策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としています。

調査においては、国語および算数・数学について、基本的な知識・技能の定着をみる「知識」に関する問題（国語Aおよび算数・数学A）と、知識・技能等を実生活のさまざまな場面に活用する能力をみる「活用」に関する問題（国語Bおよび算数・数学B）を「教科に関する調査」として出題しています。

また、児童生徒の生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査も実施しています。

◆結果の概況

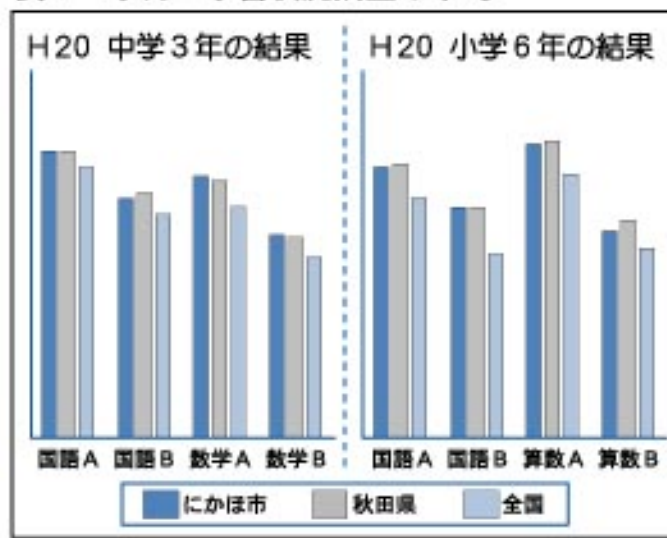
「知識」など基礎学力を問う問題（A）に

ついては、全国平均と比較すると、本市の小学校・中学校とも高いレベルで良好な状態と考えられます。

県平均と比較すると、小学校ではわずかに低くなっていますが、その差はほとんどありません。

思考力など「活用する力」を問う問題（B）についても、全国平均と比較すると良好な状態と考えられます。ただし、県平均との比較からみると、小学校6年生の算数Bと中学校3年生の国語Bは、やや低くなっています。

表1 学力・学習状況調査の平均



◆結果の考察

全国平均と比較すると、小学校・中学校ともに、国語、算数・数学のA問題については、高いレベルにあることから、児童生徒に基礎的・基本的な内容の習得が図られているといえます。これは、各校の学習指導において、個々に応じたきめ細かな指導が行われてきた結果ととらえることができます。

B問題については、思考力など「活用する力」を問う問題であることから、各校において、知識・技能を獲得する過程で思考力・判断力・表現力等を高めていくような、いわゆる問題解決的な学習を推進してきた成果であると考えられます。

また、文部科学省の分析では、規則正しい生活習慣と学習習慣の確立が、学力と関係していることが示唆されています。

本市では、「朝食を毎日食べる」「学校への持ち物を確認する」「起床時刻・就寝時刻」などの基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒の割合が高くなっています。学習習慣に関しては、家庭学習の時間が比較的多く、自分で計画を立てて予習や復習をしたり、テストで間違えた問題を勉強したりする児童生徒の割合が高くなっています。

このようなことから本市においては、基本的な生活習慣と学習習慣が結びついており、学力の基盤となる望ましい学習習慣が定着している児童生徒の割合が高いといえます。

さらに、「最後まで解答を書こうとしましたか」という質問に対しては、「解答を書こ

うと努力した」と答えている児童生徒の割合が高く、問題にねばり強く取り組んでいる児童生徒が多いことがわかります。

以上のことから、本市においては、学習習慣が確立していること、個々に応じたきめ細かな指導や思考力・判断力・表現力等を高める学習が実践されていること、学習意欲が高いことなどが、今回の学力・学習状況調査の結果に反映されていると考えられます。

◆課題と対策

今年度の学力・学習状況の結果は、全国平均と比較すると良好といえますが、県平均と比較すると、小学校6年生の算数Bと中学校3年生の国語Bにかかわる内容については、いっそうの指導の充実が望まれます。

どちらもB問題で、思考力など「活用する力」を問う問題です。

ただし、このことは、にかほ市だけの課題ではありません。今回の調査結果について、文部科学省は「依然として知識よりも活用に課題がある」としており、表1の学力調査の結果を表したグラフを見ても、全国的に「活用」に課題があることは明らかです。

にかほ市教育研究所では、平成18年度から「生かす力をはぐくむ学校教育の推進」をテーマとして、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成のバランスのとれた指導に取り組んでいます。

これは、平成23年度（中学校は24年度）から施行される新学習指導要領の基本方針として重視されていることでもあります。

各学校においては、現在、知識・技能を確実に定着させることにとどまらず、思考力・判断力・表現力等をいっそう伸ばすために、日ごろから創意工夫のある授業が展開されています。全国学力・学習状況調査や県で実施している学習状況調査の結果が、年々向上しているのはその成果の表れです。

今後も継続して、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成のバランスのとれた指導を充実させていくことで、「活用する力」をいっそう向上させていくことができると考えられます。

※表1と表2については、本市・県・国を比較したものでありますので、点数は記載していません。

問合せ先 学校教育課 ☎38・2266

表2 生活習慣と学習習慣の結果

